

おいしい食事と福祉への理解を

食堂「ひだまり」店長

千葉 伸さん



6月1日、市役所本庁舎地下に障がい福祉サービス事業所「和賀の園」(菊池克雄施設長)が食堂「ひだまり」をオープンさせました。ひだまりは、国の経済対策「ふるさと雇用再生特別交付金」を活用しての新店。スタッフは店長の千葉伸さん(40歳)、和賀の園利用者の4人、調理師2人の計7人です。

千葉さんは和賀の園の職員として、施設利用者と一緒に野菜の栽培や販売、段ボールの組み立てなどを通じて、利

用者の職業訓練と工賃(給料)の引き上げを目指して働いていました。

今年3月、菊池施設長から食堂の店長就任の打診を受けた際、「利用者の工賃アップにつながるれば」と二つ返事で快諾。3カ月足らずの準備期間を経て、調理の補助や接客、会計まで何でもこなせるようになりました。「まちなかに

あることで、市職員だけでなく一般の人にも足を運んでいただきたい。食事を楽しんでもらうとともに、障がい者福祉への理解も深めてもらえれば」と期待を込めます。

今月中旬からは、食堂の一角に和賀の園で作られたこうじ南蛮の販売を開始。キムチや味噌、納豆など、ほかの福祉施設の加工品も並びます。将来は食堂のメニューにも、福祉施設で生産された野菜



明るく元気な「ひだまり」のスタッフの皆さん

や加工品など使うことを計画しています。

今回の出店では「接客や洗い物などの経験ができ、利用者の職業訓練にもなる。ここで経験を積むことで、飲食店への就職につながるのでは」と思いを巡らせました。「常に笑顔でスピーディーなサービス」を心掛けている千葉さん。店内に一歩足を踏み入れると「いらっしやいませ!」と元氣な声が響きます。

食堂「ひだまり」は、月曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで営業しています。



国際交流ルーム発

ハロー! まいぶんんど 115

隣国「台湾」の幼児教育事情

日本と台湾では子育て環境はどのような違いがあるのか、高雄市出身のコウ・ケイケイさんと新竹市出身のジュアン・シャオジンさんから様子を伺いました。

台湾では共働き家庭が多いため、出産後母親が仕事に復帰できる環境は日本よりも整っています。2歳未満の幼児を受け入れる幼稚園もたくさんあり、保育時間も早朝から晩までと長く、ニーズに合わせて一日だけの「預かり保育」制度もあります。送迎バスは自宅まで来るのが普通で、バス停で待つ習慣を日本に来てから知ったそうです。

また、日本の幼稚園では自然教育や親子関係を重視し共に行事などを楽しめるのに対し、台湾では台湾語

と英語のバイリンガルに対応し、幼児から英語教育に力を入れ、保護者がいつでも自由に参観できるのが特徴です。環境は違っても子どもに対する愛情は万国共通と感じられました。

国際交流ルームには子どもの目の高さに合わせたおもちゃもあります。子連れの外国人ママさんもお気軽にお立ち寄りください。



国際交流ルームのおもちゃで遊ぶケンタ君(2歳・左)、ソラ君(4歳)

国際交流ルーム

電話・ファクス: 63-4497

電子メール: kiah@kitakami.ne.jp

おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内

開館日: 毎週月-土曜日 午後1時-7時

休館日: 日曜・祝日、第3水曜日、年末年始

きたかみ物産館

口内産の材料で作るふるさと味の
くろみつぶかし



口内町ふるさと産業開発組合

口内町荒町5
☎FAX 69-2110

▶▶ 39

地場産の安全を届けます

平成元年に地元住民の手で設立した組合です。もちや団子を中心に、りんごジャムやみそ、小豆の缶詰などを作っています。もち米やこしじなどの材料は地場産を使用。特にみそはすべて地場産から出来た商品です。

毎日早朝から2人体制での作業。季節ごとに採れる材料を入れながら、出来たてを産直へ出品しています。



(左)昆野 昭子 さん
(右)後藤 澄子 さん

《6月の新着本から》

『12歳の空』

三船恭太郎 著
小学館

盛岡在住の小学6年生が書いた本格派小説集。処女作「ヘチマと僕と、そしてハヤ」の改稿バージョンをはじめ、登場人物のその後を描いた書き下ろしを合わせ全3編を収録。

『近衛家七つの謎』

工藤美代子 著
PHP研究所

上海・東京・モスクワ…大都会の中枢に仕掛けられた国際的な謀略のわな。近衛文麿・文隆親子を死に追いやった、昭和史における重要事件の真相に、新資料を駆使して挑む。



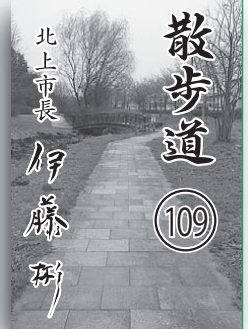
姿勢が悪いと？

ゴルフの名手いわく「いすに座っているときは足を組まないようにする」。体の左右のバランスが崩れ、フォームに影響するからだという。大事なことは、普段の筋力のトレーニングと心掛けだとも言っていた。近年のわたしは会議も多く、足を組んだりいすに寄りかかっていることが多い。普段の運動不足のため、つい楽な姿勢をとってしまうのだろう。

子どものころ、食事の際に飯台にひじをつけて母にしかられた。わたしもその教えを守り、子どもたちにひじをつけてご飯を食べるなどうるさくしかった。今の自分はふと気が付くと、ひじをつけてテレビを見ながら食事をしている。妻と二人きりの食事だから文句

散歩道

109



北上市長 伊藤 研

は言われないが、孫と一緒にのときにこの癖が出たら「はっ」とした。「いかん、いかん」気を付けなければ。昔の人は年を取っても腰が曲がっても、体が小さくなっても、姿勢を正しくしようとする意識やしつけや教えは頑固に守っている。世相や生活様式の変化で若い世代に問題が起きると「その原点は教育にあり」と人は言う。そして「子どもの教育より親の教育に課題あり」と結論付ける。ごもつともまず体力か？ 体力の衰えは姿勢を悪くする。しつけまで崩れてはいけない。教育を論ずる資格もなくなる。

健康維持、体力増強、メタボ解消のためか、早朝の散歩やトレッキングに精出す人が多い。わたしも一念発起、早起きしてやろうと心掛けても新聞を見て朝食を楽しんでしまう。筋力を鍛える方法は何がいいかなとつぶやくと「タバコやめれば？」。妻のきつい一言がぐざりときた。それを言わなければ「イイ女」。それを言うから「イイ女」が合かない。課題は残った。